

## 平成27年度事務事業評価シート（平成26年度決算）

事業コード	130 - 4 -	作成者氏名	升 克頼	連絡先	0833-72-1400
事務事業名	長期債元金償還金・利子		担当課	財政課	
予算費目	一般会計	款 12	公債費	項 1	公債費
総合計画 後期 基本計画	基本目標 重点目標 政 策	コ ー ド  2	IV 3 2	項目	時代を拓く新たな都市経営 持続可能な行財政運営を目指して 持続可能な財政基盤の確立
					総合計画 後期基本計画 224 頁

対象	市債元金・利子	意図 (対象をどのように したいのか)	市債発行の際に定めた償還計画表に従い期限日に支払う。
事務事業 の概要	市債発行の際に定められた償還計画表に従い期限日に支払いを行う。		

事務事業の成果指標	単位	24年度 実績	25年度 実績	26年度			27年度 目標	類似団体等 の実績値等
				実績	目標	達成度		
償還遅延回数	回	0	0	0	0	100.0%	0	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）						業務 評価	重点 業務
		指標名	単位	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度目標		
		事業費	単位	24年度決算	25年度決算	26年度決算	27年度予算		
1	市債元金の償還	償還遅延回数	回	0	0	0	0	A	◎
		事業費	千円	1,973,287	1,723,273	1,918,526	2,011,960		
2	市債利子の支払い	支払い遅延回数	回	0	0	0	0	A	○
		事業費	千円	324,871	299,109	280,869	266,985		
3		事業費	千円						
4		事業費	千円						
5		事業費	千円						
6		事業費	千円						
7		事業費	千円						
8		事業費	千円						
9		事業費	千円						
10		事業費	千円						
11		事業費	千円						
12		事業費	千円						
13		事業費	千円						
14		事業費	千円						
15		事業費	千円						
直接事業費の合計（千円） A				2,298,158	2,022,382	2,199,395	2,278,945		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.44人	0.44人	0.44人			
		人件費（千円） B		3,232	3,099	3,148			
人件費を含む総事業費（千円） A+B				2,301,390	2,025,481	2,202,543			
財源内訳		国庫支出金							
		県支出金							
		地方債		225,000					
		その他		94,188	90,535	84,499			
		一般財源		1,982,202	1,934,946	2,118,044			

【業務評価】  
A 現状維持・拡充  
B 改善  
C 縮小・抜本的見直し  
D 休廃止・統合・完了

表面の「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由  
 市債元金と市債利子に関する業務は、ほぼ同一の業務であるが、償還遅延が生じた際、元金に関する業務は利子に関する業務よりも将来の財政的リスクが高いため。

◆事務事業に対する評価◆

評価の視点	評価の視点から、事務事業の意図を達成するにあたり、どのような課題があるか。
事務事業の成果	事務事業の成果を、成果指標等から達成度や事業の効果、課題等を分析する。 市債の償還を遅滞なく行うため、償還遅延回数を成果指標として設定している。
事務事業を構成する業務の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 事務事業と事務事業を構成する業務が同一のため、有効であると認識している。
実施主体の妥当性	事業に対する市の役割の妥当性、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 市債償還に関する事務は内部事務であり、その性質からも市が実施すべき事業である。

◆改善提案◆

27年度の新規業務名	業務の概要
27年度の休廃止業務名	休廃止する理由

事務事業の意図を達成するための具体的な改善提案（内容、予定時期等）

予算の増減を伴わず実施可能な改善提案	
予算の増減を伴う改善提案	

◆事務事業の方向性◆

事務事業執行責任者（課長名）	森重 哲昌
事務事業の今後の方向性	市債の償還は、計画的かつ確実にを行う必要があるため、今後も事業を継続する。

最終評価責任者（部長名）	小田 康典
部長意見欄	義務的経費である公債費については、引続き計画的な償還を継続していく。

## 平成27年度事務事業評価シート（平成26年度決算）

事業コード	130 - 5 -	作成者氏名	升 克頼	連絡先	0833-72-1400
事務事業名	一時借入金利息	担当課	財政課		
予算費目	一般会計	款 12	公債費	項 1	公債費
総合計画 後期 基本計画	基本目標 重点目標 政 策	コ ー ド	IV 3 2	項 目	時代を拓く新たな都市経営 持続可能な行財政運営を目指して 持続可能な財政基盤の確立
					総合計画 後期基本計画 224 頁

対象	一般会計の歳計現金	意図 (対象をどのように したいのか)	歳計現金の不足を補うため、一時的に基金等から借入を行う。
事務事業 の概要	歳計現金の不足を補うため、一時的な借入や基金の繰替運用を行い、これらにかかる利息を支払う。		

事務事業の成果指標	単位	24年度 実績	25年度 実績	26年度			27年度 目標	類似団体等 の実績値等
				実績	目標	達成度		
償還遅延回数	回	0	0	0	0	100.0%	0	
配当要求調査回数	回	11	11	11	11	100.0%	11	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）						業務 評価	重点 業務
		指標名	単位	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度目標		
		事業費	単位	24年度決算	25年度決算	26年度決算	27年度予算		
1	一時借入金利息の支払い	償還遅延回数	回	0	0	0	0	A	○
		事業費	千円	200	45	66	2,000		
2	配当要求	配当要求調査回数	回	11	11	11	11	B	◎
		事業費	千円	0	0	0	0		
3		事業費	千円						
4		事業費	千円						
5		事業費	千円						
6		事業費	千円						
7		事業費	千円						
8		事業費	千円						
9		事業費	千円						
10		事業費	千円						
11		事業費	千円						
12		事業費	千円						
13		事業費	千円						
14		事業費	千円						
15		事業費	千円						
直接事業費の合計（千円） A				200	45	66	2,000		
職員人件費等		業務量（人工数）		0.15人	0.15人	0.15人		【業務評価】	A 現状維持・拡充 B 改善 C 縮小・抜本的見直し D 休廃止・統合・完了
		人件費（千円） B		1,102	1,057	1,073			
人件費を含む総事業費（千円） A + B				1,302	1,102	1,139			
財源内訳		国庫支出金							
		県支出金							
		地方債							
		その他							
		一般財源				1,302	1,102	1,139	

表面の「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由  
 配当要求により資金収支の見通しを把握し、一時借入金等の適切な執行を行うため。

◆事務事業に対する評価◆

評価の視点	評価の視点から、事務事業の意図を達成するにあたり、どのような課題があるか。
事務事業の成果	事務事業の成果を、成果指標等から達成度や事業の効果、課題等を分析する。 資金収支をきめ細やかに把握するため、配当要求の調査回数、また、償還を遅滞なく行うため償還遅延回数をそれぞれ成果指標として設定している。
事務事業を構成する業務の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 事務事業と事務事業を構成する業務が同一のため、有効であると認識している。
実施主体の妥当性	事業に対する市の役割の妥当性、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 一時借入に関する事務は内部事務であり、その性質からも市が実施すべき事業である。

◆改善提案◆

27年度の新規業務名	業務の概要
27年度の休廃止業務名	休廃止する理由
事務事業の意図を達成するための具体的な改善提案（内容、予定時期等）	
予算の増減を伴わず実施可能な改善提案	配当要求について、担当課との連絡を密にするなど、実績とのかい離が生じないように努める。
予算の増減を伴う改善提案	

◆事務事業の方向性◆

事務事業執行責任者（課長名）	森重 哲昌
事務事業の今後の方向性	歳入現金の一時的な不足については、基金の繰替運用や金融機関からの一時借入で補う必要があるため、資金収支の的確な見通しによる必要最小限の範囲で、今後も事業を継続する。

最終評価責任者（部長名）	小田 康典
部長意見欄	一時的な支払い資金等の不足に対応するため、一時借入金の借入は必要であるが、繰替運用等の活用により、必要最低限の借入れで対応していく。